



令和8年度 果樹情報 第2号

(令和8年4月15日)

果樹の発育予測、防霜対策と病害虫防除対策
福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (4月上旬、果樹研究所)

平均気温は、1半旬が11.7℃で平年より2.9℃高く、2半旬が12.2℃で平年より1.8℃高く経過しました。

この期間の降水量は56.5mmで平年比242%でした。日照時間は56.0時間で平年比75.4%でした。

2 土壌の水分状況 (4月12日現在)

4月12日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで2.1、深さ40cmで1.9、深さ60cmで1.7となっており、概ね適湿状態です。

3 発育状況 (果樹研究所：4月13日現在 会津地域研究所：4月9日現在)

(1) 農業総合センター果樹研究所 (福島市飯坂町)

ア ももの開花は、「あかつき」が4月4日で平年より8日早く、「ゆうぞら」が4月6日で平年より6日早くなりました(表2)。ももの満開は、「あかつき」「ゆうぞら」ともに4月10日で平年より8日早くなりました(表2)。

イ なしの展葉は、「幸水」が4月6日で平年より6日早く、「豊水」が4月2日で平年より6日早くなりました(表1)。なしの開花は、「幸水」が4月11日で平年より8日早く、「豊水」の開花は4月7日で平年より8日早くなりました。なしの満開は「豊水」が4月12日で平年より8日早くなりました(表2)。

ウ りんごの展葉は、「つがる」が4月1日で平年より6日早くなりました(表1)。りんごの開花はまだ確認されていません(表2)。

エ かきの展葉は、「平核無」が4月10日で平年より7日早くなりました。

表1 各樹種(品種)の発芽および展葉状況(農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
なし	幸水	3月28日	3月31日	3月28日	4月6日	4月12日	4月9日
	豊水	3月25日	3月28日	3月26日	4月2日	4月8日	4月7日
りんご	つがる	3月25日	3月25日	3月25日	4月1日	4月7日	4月4日
	ふじ	3月24日	3月26日	3月26日	3月31日	4月5日	4月2日
かき	平核無	3月31日	4月3日	4月1日	4月10日	4月17日	4月17日

注) 平年は1996~2025年の平均値。

表2 各樹種(品種)の開花状況(観測地点：農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	開花始観測日			開花盛観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月4日	4月12日	4月9日	4月10日	4月18日	4月15日
	ゆうぞら	4月6日	4月12日	4月10日	4月10日	4月18日	4月16日
なし	幸水	4月11日	4月19日	4月17日	未	4月24日	4月20日
	豊水	4月7日	4月15日	4月14日	4月12日	4月20日	4月18日
りんご	つがる	未	4月24日	4月21日	未	4月28日	4月25日
	ふじ	未	4月24日	4月20日	未	4月28日	4月24日

注) 平年は1996~2025年の平均値。

(2) 農業総合センター会津地域研究所（会津坂下町）

ア りんご「ふじ」の展葉は、4月3日で平年より8日早くなりました（表3）。

イ かき「会津身不知」の発芽は、4月6日で平年より7日早くなりました（表3）。

表3 各樹種（品種）の発芽および展葉状況（農業総合センター会津地域研究所）

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
りんご	ふじ	3月27日	4月1日	4月2日	4月3日	4月11日	4月10日
かき	会津身不知	4月6日	4月13日	4月15日	未	4月27日	4月23日

注) 平年は1996～2025年の平均値。

3 発育予測

仙台管区気象台が4月9日に発表した1か月予報（4月11日～5月10日）では、今後の気温は平年より高く推移すると見込まれ、特に期間のはじめはかなり高くなると予測されています。

●東北地方1か月予報（仙台管区気象台 令和8年4月9日発表）

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目（4/11～4/17）は、高い確率80%です。

2週目（4/18～4/24）は、高い確率50%です。

3～4週目（4/25～5/10）は、高い確率50%です。

気象庁 [営農活動に役立つ気象情報] <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/nougyou/nougyou.html>

(1) 農業総合センター果樹研究所（4月13日現在）

果樹研究所（福島市飯坂町）におけるりんご「ふじ」の開花は、気象庁の気温予報を反映した予測では、4月19日ごろで平年より5日早いと予測されます（表4）。

また、なし「幸水」の満開予測日は4月18日ごろで平年より6日早く、りんご「ふじ」が4月24日ごろで平年より4日早いと予測されます（表5）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により大きく変動することがあるため注意が必要です。

表4 発育予測日 [発育速度（DVR）モデルによる発育予測：4月13日現在]

	開花日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
ふじ	4月20日	4月24日	4月19日	4月20日	4月24日	4月29日

注1) 開花日の平年値は、1996～2025年の平均

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります

表5 満開予測日 [発育速度（DVR）モデルによる発育予測：4月13日現在]

	満開日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
幸水	4月20日	4月24日	4月18日	4月18日	4月20日	4月21日
ふじ	4月24日	4月28日	4月24日	4月24日	4月26日	4月29日

(2) ももの発育予測

今後の気温経過について気象庁の気温予報を反映した予測では、もも「はつひめ」の硬核期開始日は6月4日ごろで平年より5日早い見込みです（表6）。また、収穫開始日は6月30日ごろで平年より5日早く、収穫盛期日は7月4日ごろで平年より4日早いと予測されます。

また、もも「あかつき」の硬核期開始日は6月2日ごろで平年より5日早い見込みです(表7)。また、収穫開始日は7月25日ごろで平年より4日早く、収穫盛期日は7月28日頃で平年より4日早いと予測されます。

なお、今後の気温が2℃高く経過した場合は、「はつひめ」、「あかつき」とともに平年に比べて6日～8日生育が早まる見込みなので、今後の気象予報に留意願してください。

表6 もも「はつひめ」の発育予測 [発育速度 (DVR) モデルによる発育予測：4月13日現在]

	観測日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
硬核期開始日	6月7日	6月9日	6月4日	6月1日	6月5日	6月10日
収穫開始日	6月30日	7月5日	6月30日	6月28日	7月1日	7月5日
収穫盛期日	7月4日	7月8日	7月4日	7月2日	7月5日	7月8日

注1) 平年は2010～2025年の平均値。

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温(3～4週目の平均気温)を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) モモ「はつひめ」の発育予測は1～2日の誤差があることに留意する。

表7 もも「あかつき」の発育予測 [発育速度 (DVR) モデルによる発育予測：4月13日現在]

	観測日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
硬核期開始日	6月5日	6月7日	6月2日	5月30日	6月3日	6月8日
収穫開始日	7月25日	7月29日	7月25日	7月21日	7月26日	7月31日
収穫盛期日	7月29日	8月1日	7月28日	7月25日	7月29日	8月4日

注1) 平年は1996～2025年の平均値。

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温(3～4週目の平均気温)を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) モモ「あかつき」の発育予測は1～2日の誤差があることに留意する。

(3) 農業総合センター会津地域研究所 (4月10日現在)

会津地域研究所(会津坂下町)における果樹の生育は、気象庁の2週間気温予報を反映した2週間予測では、りんご「ふじ」の開花が4月21日ごろで平年より9日早く、かき「会津身不知」の展葉が4月20日ごろで平年より7日早いと予測されます(表8)。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により大きく変動することがあるため注意が必要です。

表8 発育予測日 [予測方法：発育速度 (DVR) モデルによる発育予測] (会津地域研究所)

	展葉日		開花日		気象予報	今後の気温経過		
	昨年	平年	昨年	平年		2℃高い	平年並	2℃低い
ふじ	—	—	4月26日	4月30日	4月21日	4月23日	4月26日	4月30日
会津身不知	4月23日	4月27日	—	—	4月20日	4月22日	4月24日	4月26日

注1) 展葉日および開花日の平年値は、1996～2025年の平均

注2) 今後の気温経過の気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温(3～4週目の平均気温)を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値

注3) 発育予測は2～3日の誤差を生じる場合があります

4 栽培上の留意点

(1) 防霜対策

耐凍性は生育が進むにつれて低下し、開花期から幼果期にかけて最も弱く、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

最新の情報は、福島地方気象台ホームページ「2週間気温予報」や「霜と気温の見通し」を御確認ください。

「2週間気温予報」 : <https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

「霜と気温の見通し」 : <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/shimo/shimo.html>

現在の果樹の生育は、各樹種ともに平年より6～8日程度早まっています。生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には、速やかに防霜対策を実施しましょう。

各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、農業振興課ホームページの技術資料「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和8年3月13日一部修正）」を参照してください。

URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyou>

事前対策としては、防霜資材を準備するとともに、地温の上昇を図るため下草は5cm程度に刈り込みましょう。また、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

なお、降霜による被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。特に、花粉がない若しくは少ない品種においては、注意が必要です。

(2) 人工受粉

開花期が強風や乾燥、低温条件で経過すると結実が劣る場合があるため、このような条件下では人工受粉をより丁寧に行い、結実の確保対策を徹底しましょう。

人工受粉の際に、花粉を石松子などで増量する場合は事前に発芽率を確認し、発芽率に応じた希釈倍数に調整しましょう。なお、発芽率30%以下の花粉は希釈しないでそのまま使用します。受粉期間中は、花粉をできるだけ涼しい場所（冷蔵庫が望ましい）に密封して保管し、花粉発芽率の低下を防ぎましょう。

花粉保有量が少ない場合には、表9を参考に花粉純度や使用量に応じて適切な受粉方法を選択しましょう。

表9 受粉方法と特徴

方法	花粉供給と受粉方法	花粉純度	花粉使用量
梵天	羽毛に手で花粉を付ける	粗 or 純	少
みつばち花子	受粉毛に手動ポンプで花粉を供給	粗 or 純	中
ラブタッチ	受粉毛にモーターで花粉を供給	純	中
ポーレングスター	受粉毛にモーターで花粉を供給	純	少
養液受粉	花粉混合養液をスプレーで散布	純	多

※メーカー各社情報および試験データより

5 病虫害防除上の留意点

現在の果樹の生育は、平年より6～8日程度早まっています。今後の気温の見通しでは、引き続き平年よりも前倒しになる見込みのため、気象情報を確認し、防除時期が遅れないように留意しましょう。また、耕種的防除を徹底し発生密度の低減を図りましょう。

(1) 病害

ア リンゴ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後ころです。昨年、本病の発生が認められた園地では、開花直前の防除は、効果の高いDMI剤（県病虫害防除指針参照）またはカナメフロアブル 4,000倍を十分量散布して被害防止に努めましょう。

イ リンゴ褐斑病

果樹研究所における罹病落葉からの子のう胞子の初飛散は、確認されていません。近年、子のう胞子の飛散盛期が開花期間に確認されることがあるため、例年本病の発生が多い園地では、開花直前にジマンダイセン水和剤 600 倍を使用して感染を防止しましょう。

ウ モモせん孔細菌病

本病は、発生初期の密度抑制が重要なため、定期的にはほ場を巡回し、病斑の早期発見とせん除を徹底し、春型枝病斑からの感染防止を図りましょう。なお、落花直後に本病防除剤を使用し、被害防止に努めましょう。

薬剤散布後の病斑のせん除は、葉斑により病斑を発見することが困難となる場合がありますが、芽や新梢葉の生育不良を目安に、発病が疑わしい枝は見つけ次第せん除しましょう（図1～2）。

なお、春型枝病斑のせん除は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部から切り戻しましょう（図3）。

春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回実施しましょう。

～モモせん孔細菌病の春型枝病斑の特徴と見分け方～

- 枝の表面が黒ずみ、やがて亀裂が生じて凹む
 - 新葉が赤っぽくなる
 - 新梢葉の伸びが悪い(部分的に芽が枯死している)
- などの症状がみられた場合は、春型枝病斑の可能性が高いため見つけしだいせん除しましょう！



図1 春型枝病斑の特徴



図2 葉斑によって発見困難な病斑

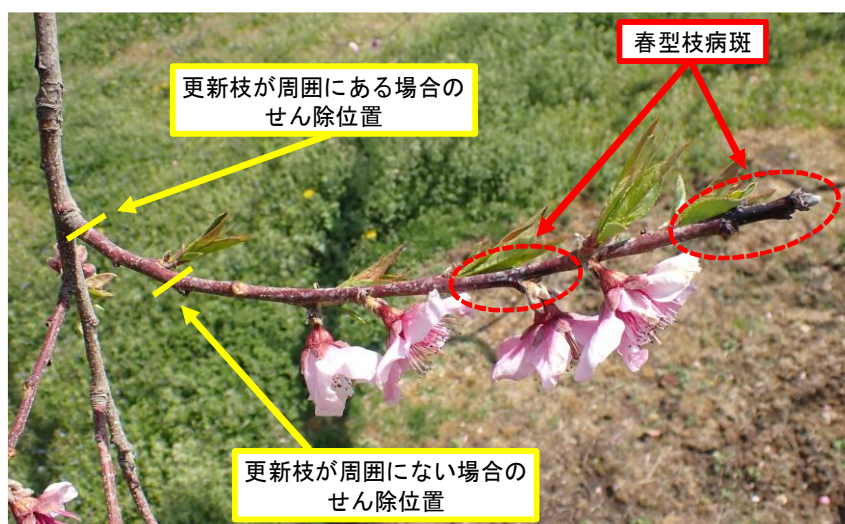


図3 春型枝病斑のせん除位置

エ モモ灰星病

例年本病の発生が多い場合は、開花初期に本病に有効な防除剤を使用しましょう。また、花腐れは果実への伝染源となるので、早めに摘除して適切に処分しましょう。

オ ナシ黒星病

本病の重要な防除時期は開花期前後です。薬剤防除は開花直前に効果の高いDMI剤（県病害虫防除指針参照）を十分量散布しましょう。なお、開花期間が長引き、次回（落花直後）との散布間隔が10日以上あく場合は、今回散布10日後に追加散布を実施しましょう。ただし、人工受粉当日の実施は避けましょう。

エ ブドウ晩腐病

前年の房の取り残し部分、巻きひげ、結果母枝の枯死部などを丁寧に除去し、越冬病原菌密度の低下を図りましょう。また、発芽前の防除を徹底しましょう。

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

モモハモグリガの越冬世代成虫の発生盛期は、今後気温が2℃高く推移した場合、4月4半旬ごろと予想され、第1世代幼虫の防除適期は4月5半旬ごろと推定されます（表10）。なお、今後の気温の推移により防除適期も変動するため、落花10日後頃を目安に防除を実施しましょう。

イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキ及びリンゴコカクモンハマキは幼虫で越冬し、展葉以降に新梢を加害します。昨年、本種の発生が多かった園地や、現在、花や新葉に食害が見られる園地では、りんごでは落花直後、なしでは落花1週間後に本種に登録のある殺虫剤を使用しましょう。

ウ リンゴハダニ

リンゴハダニ越冬卵のふ化盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、4月4半旬ごろと予想されます（表10）。越冬卵密度の高い園では、落花後以降の発生密度に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら殺ダニ剤を使用しましょう。

表 10 果樹研究所における防除時期の推定（令和 8 年 4 月 13 日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴハダニ
	越冬世代 誘殺盛期	第 1 世代 防除適期	越冬卵 ふ化盛期
2℃高い	4月14日	4月21日	4月18日
平年並み	4月15日	4月24日	4月20日
2℃低い	4月15日	4月26日	4月22日

起算日：3月1日（演算方法は三角法）

※3月25日の気象データは福島市アメダスデータを使用し、それ以外は果樹研究所の気象データを使用した。

～ 中国産の輸入花粉は使用できません ～

国は、中国において火傷病(かしょうびょう)が発生したことを受け、令和5年8月30日に中国からの火傷病菌の宿主となる植物(花粉等)の日本への輸入を停止しました。これにより、中国産のなし及びりんご花粉の供給が停止されます。

- 火傷病に感染した花粉や疑いのある花粉の使用により、本病に感染するおそれがありますので、万一、在庫を保有している場合でも、中国産花粉は使用を控えてください。
- 令和8年の果実生産に向け、自家採取等による花粉の確保に努めてください。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧いただけます。)

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>